

被服製作実習を支援する授業展開についての試み（その2）

～被服解体を通して～

榎 崎 久 美 子

(2010年11月12日受理)

A study of the class development for Dressmaking (2)

— By dismantling clothing —

Kumiko NARAZAKI

はじめに

本紀要第17号において、「被服製作実習を支援する授業展開についての試み」と題し、授業の中で被服を解体することによって、被服構成についての理解を深め、さらにその後の被服製作授業での創作活動をいかに手助けできるか、という目的で実験を行った結果を報告した。(注1)

結論としては、被服の解体作業そのものが初めてである被調査者が多く、新鮮な驚きを持ってその構成を確認し、理解を深めていたことが見受けられた。しかし、課題として、解体する不要服の選定の徹底、解体後の解説を丁寧に行うことや配布資料の質問に対する考え方の誘導の必要性などが挙げられた。

よって、今回は解体前後の専門用語の説明の徹底、配布資料への気づきの書き方の指導をより丁寧にすることで、今後の被服製作実習を支援する、被服構成の理解力と被服を正確に観察・分析できる力を養うことを目的として、実験及び調査を行った。

先行研究と被調査者の現状について

昨年いくつかの論文を挙げているが、小・中・高校の段階における被服製作実習の報告は多くみられる。ただし、大学生を対象にしたものはあまり見受けられず、介護福祉士を目指す短大生に対する介護服に関わる被服製作実習の報告や、コンピュータを用いた製図についての報告が見られる程度である。

さて、被調査者は事前の調査によると高校での家庭科の授業では主に食物に関わる実習はしているものの、被服実習をしたという学生は少なかった。昨年は家政系の高校出身者もいたが、本年の調査結果を分析する際にはこの点をふまえての考察が必要である。また、中学校でもあまり被服実習の機会がなく、ミシンを使用した授業は小学校までさかのぼるという被調査者もいた。しかし、普段からミシンを用いて小物を作る趣味を持っている学生やアパレル、ファッションに興味を持っている学生は昨年よりも多いため授業に対する態度が大変まじめで、不要服をほぼ全員が持参していた点が特記すべき被調査者の現状であると思われる。

方 法

1) 調査対象

広島女学院大学で行われるファッション・デザイン実習Ⅱ（洋裁）を受講する学生24名

2) 調査日

2010年10月5日

3) 方法及び改善点

①被服構成に関する基礎知識の習得のため、洋服（シャツ・パンツ・スカート）の部分名称を解説する配布資料（図1）を用い、講義を行う。調査者は講義を聞き、配布資料に用語を記入する。

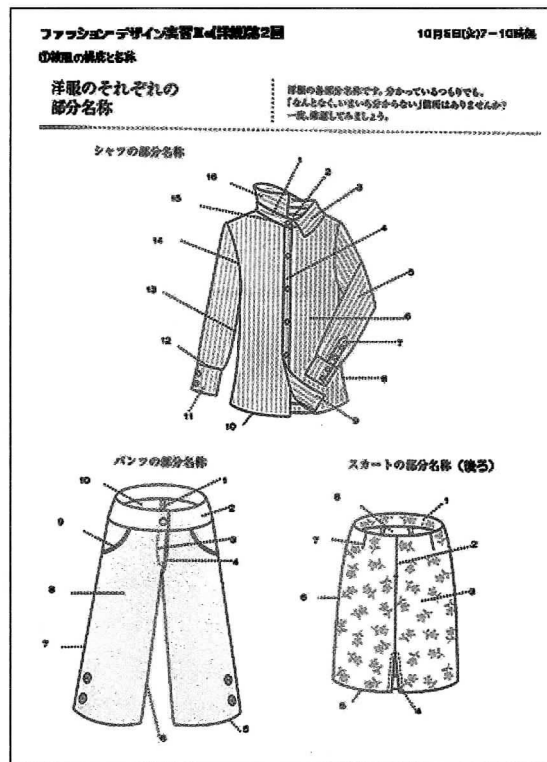


図1 洋服の部分名称を確認する配布資料（注2）

昨年と比べての配布資料の改善点は、スカートの図が後ろ身頃をさしている点を追記することと、それぞれの部分名称を書きこむ引き出し線に番号を振ったことである。このことにより、口頭での説明を聞いての書き込みがしやすくなり、同時に部分名称について理解しやすくなったものと考えられる。

また、ワンピースデザインにも使用できる部分名称やデザインに関する用語について、昨年は記載された用語のみを用い、黒板にイラストを書くことで形やシルエットを教示したが、今年はイラスト入りの配布資料（図2）を用い、より深い理解を促した。

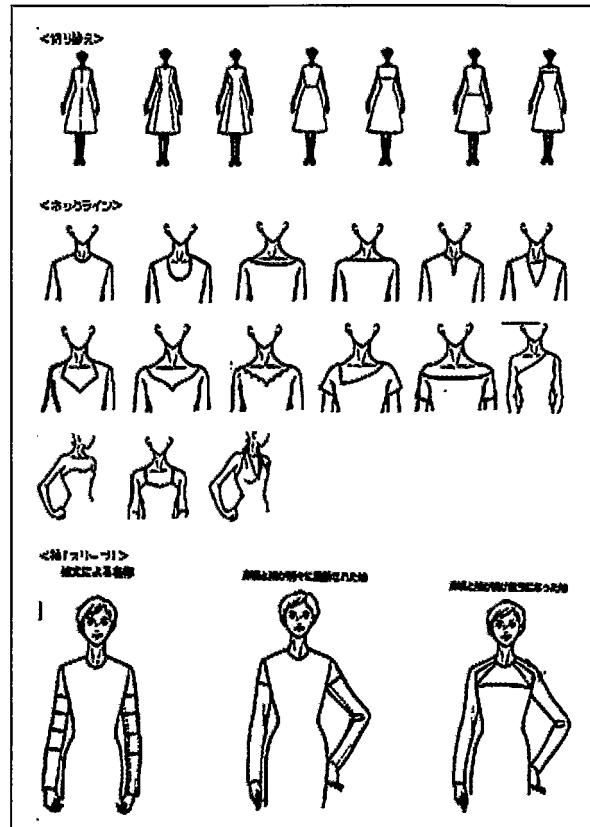


図2 シルエットや衿ぐり、袖の長さなどを確認する配布資料(注3)

確認した用語は、シルエットについてはストレートシルエット・フィット&フレアシルエット・テントシルエット・逆三角形のシルエットの4用語を、切り替えについてはセンターライン・プリンセスライン・パネルライン・ノーマルウエスト・ハイウエスト・ローウエスト・ヨークの7用語を、ネックラインについてはラウンドネック・Uネック・ボートネック・スラッシュドネック・オープンフロントネック・Vネック・ダイヤモンドネック・ハートシェイプトネック・スカラップネック・アシメトリックネック・ストラップレスネック・オフショルダーネック・キャミソールネック・オブリークネック(ワンショルダーネック)・ホルターネックの15用語を、袖(スリーブ)については、ノースリーブ・ハーフスリーブ(3分丈・4分丈)・エルボーレングススリーブ・スリークォーター(プレスレット)スリーブ・リストレングススリーブ・セットインスリーブ・ドロップトショルダースリーブ・エポーレットスリーブ・ラグランスリーブ・ヨークスリーブ・ランタンスリーブ・タックスリーブ・フレアスリーブ・レッグオブマートンスリーブ・ビショップスリーブ・ドルマンスリーブ・シャツスリーブ・キモノスリー

ブ・バットウイングスリーブ・ナチュラルアームホール・アメリカンアームホールの22用語を確認させた。

昨年より用語の数を減らし、一般的あるいは学生がよく目にするであろうものを取り上げた。特に本年は実際にラグランスリーブやドルマンスリーブの上衣を着用して授業に臨んでいた学生もいたことから身近なデザインとして理解を深めさせることができた。

②被服構成に関して気付きを促す配布資料を用い、学生それぞれに被服の解体を行わせる。解体する被服は各自の家で廃棄する予定の不要服を使用する。配布資料の項目は以下の内容である。

＜裁断する前に＞

- ・持参した被服の種類（名称）を色柄、素材とともに記入
- ・何枚の布を合わせてその被服ができているか、予想パーツ枚数を記入
- ・付属品の種類と数をすべて記入

＜裁断後＞

- ・何枚の布に分断させることができたか、パーツ数を記入
- ・袖ぐりの形を見て、印象変化を自由記述
- ・衿ぐりの形を見て、印象変化を自由記述
- ・そのほか、解体被服の観察を通しての自由記述

③全員が配布資料に記入が終わったのを確認し、解体した被服を用いて、被服の部分名称の再確認と解説を行う。

4) 使用した道具

不要服、裁ちばさみ、糸切りばさみ、リッパー、定規



写真1 作業の様子 Tシャツを解体する被調査者

結果及び考察

1) 解体した被服について

被調査者が持参した被服は、長袖シャツ・ブラウス9点、半袖シャツ・ブラウス6点、長袖ポロシャツ1点、七分丈袖ブラウス1点、五分丈袖ブラウス2点、半袖カットソー1点、デニムパンツ1点、ショートパンツ2点の計23点であった。1名を除いて全員が持参しており、持参された被服はすべて女性ものの被服であった。また、高校の制服のブラウスを持参する被調査者が今回は目立った。これは衿のついた被服を所持していない、ととらえるべきか、あるいは所持はしているものの、不要服とは言えない、ととらえるべきか、さらなる選定基準の明瞭化が必要であると言える。仮説としては、高校卒業後私服で大学生活を送る中で、衿のある被服は堅苦しいイメージがあるため、新たに購入する際選定されることがなく、結果所持数が少なくなっているのだと考えられる。これについては今後の調査において、質問項目を増やすことで明らかにし、大学生の衣生活に関する傾向を知る手掛かりとして活用したい。

ともかくも、昨年の結果をふまえ、今回は事前に「ブラウス・シャツなどボタンと衿のついているもの・ホックとファスナーのついたスカートあるいはパンツ」を持参するよう指示を出していたため、ほぼ統一された種類の被服であった。このことにより、今回は衿ぐりや袖ぐり、前立て、袖の形状などの構成理解に適切な被服が持参されたと思われる。

ただ、デニムパンツ、ショートパンツについては解体後時間の都合上解説ができなかった。これについては、今後の課題としたい。また昨年も課題として挙げたが、グループを事前に作り持参する被服の種類を増やし、更に、被調査者本人の解体した被服だけでなく、他の被調査者の解体した被服も回覧し、様々な被服の構成を確認する時間を設けるとより理解を促すことができると思われる。

2) 被服構成パーツについて

①解体前と解体後の被服構成パーツ枚数について

被調査者は被服解体前にまず被服を5分程度観察し、構成パーツ枚数を数え、配布資料に記入を行った。

その後、実際に解体したのちはそれらを広げて、実際の構成パーツ枚数を数え、記入した結果は以下ようになった(表1)。

昨年同様、ほとんどの被調査者は実際のパーツ数より少ない数を解体前に記入している。やはり普段何気なく着ている被服がどのように縫い合わされ、作られているかについてはあまり考えたことがないようである。

また、今回は授業終了後に、正しく被服パーツを数えることができていたかの確認も行った。それが、表の実際の数の欄で示された数字である。今回ブラウス、シャツを持参した被調査者が多かったため、衿やカフスに貼り付けられた接着芯について理解を深める機会となった。そこで、接着芯もパーツとして数えるように指示したため、予想よりもはるかに多いパーツ数になった被調査者が多くなったのである。また、正確に接着芯まで数えられていない場合や、カフスなど1枚の布を折り畳んで袖を挟み込んで取りつけてあるパーツについては2枚の布が重なっていると勘違いをして数えられていない場合などが確認後わかった。これをふまえ、今後の試みでは接着芯について事前に指導し、被服においてはこういった場合に使われているかという説明の後解体を行うことでより正確な予測が立てられるようになると思われる。

さらに、今回は持参した被服の種類（名称）と色柄、素材についても確認させた。これは解体後に被調査者の記入したデータと写真資料の照合をするためであったが、授業の内容として素材や織り方による手触りの違いを確認する作業を回覧によって行うことで、より被服材料への関心を強めることができると考えられる。今後の課題としたい。また、解体前の写真と解体後の写真の比較も行い、視覚的な変化についても印象を聞くことも理解の度合いを確認する上で必要なことであると思われる。

解体前	解体後	実際の数	被服の種類
8	24	31	A長袖シャツ(白と茶のチェック・綿)
8	11	13	B半袖シャツ(白とベージュ・ポリエステル)
8	25	25	C半袖ブラウス(白無地・綿)
12	25	28	D長袖シャツ(赤と青のチェック・綿)
10	10	10	E長袖ブラウス(白無地・綿、ポリエステル)
18	30	31	F長袖シャツ(黄と白のチェック・綿)
11	30	35	G長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)
未記入	30	35	H長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)
8	35	47	I長袖ブラウス(赤地に白の水玉・ポリエステル)
14	25	23	Jデニムパンツ(青・綿)
17	26	40	Kショートパンツ(黒無地・綿、レーヨン、ポリウレタン)
13	30	33	Lショートパンツ(カーキ無地・綿、レーヨン)
12	17	19	M半袖ブラウス(白地に黒の水玉・ポリエステル)
13	19	20	N長袖シャツ(クリーム無地・ポリエステル、綿)
14	46	28	O五分丈ブラウス(白地に青黄の小花柄・綿)

解体前	解体後	実際の数	被服の種類
3	10	10	P半袖シャツ(灰無地・ポリエステル・綿)
6	20	23	Q長袖ポロシャツ(オレンジ・綿)
9	26	20	R長袖シャツ(白地に青チェック・綿)
8	14	14	S半袖ブラウス(白無地・ポリエステル・綿)
10	20	23	T長袖ブラウス(水色無地・綿)
19	27	31	U半袖カットソー(白地に黄のボーダー・綿)
11	26	24	V七分丈袖ブラウス(白地に青のストライプ・ポリエステル・綿)
9	12	14	W半袖ブラウス(白無地・ポリエステル・綿)
12	17	15	X五分丈袖ブラウス(白・綿)

表 1 被服解体前と解体後の構成パーツ数の変化

②付属品について

今回は付属品についても配布資料に記述するよう指示をした。被調査者は解体前に被服についている付属品を確認し、その種類と数を記入した。

これは持参した被服は布以外のこういったもので構成されているのか、必要であるかを確認するために行ったことだが、シャツ、ブラウスを持参した被調査者が多かったため、同じような記述内容になった(表2)。

被服の種類	付属品の種類
A長袖シャツ(白と茶のチェック・綿)	ボタン19個(4つ穴14個、2つ穴5個) タグ2枚
B半袖シャツ(白とベージュ・ポリエステル)	ボタン6個(2つ穴5個、予備1個) タグ2枚 刺しゅうフッペン2枚
C半袖ブラウス(白無地・綿)	ボタン4個(2つ穴4個)
D長袖シャツ(赤と青のチェック・綿)	ボタン10個(4つ穴10個) タグ1枚
E長袖ブラウス(白無地・綿、ポリエステル)	ボタン6個 タグ3枚
F長袖シャツ(黄と白のチェック・綿)	ボタン11個(4つ穴10個、予備1個) タグ2枚
G長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	ボタン15個(2つ穴15個) タグ2枚
H長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	ボタン15個(2つ穴15個)
I長袖ブラウス(赤地に白の水玉・ポリエステル)	ボタン14個(足つき14個) フリル10枚
Jデニムパンツ(青・綿)	ボタン7個 ファスナー1本
Kショートパンツ(黒無地・綿、レーヨン、ポリウレタン)	ボタン3個(4つ穴2個、2つ穴1個) タグ2枚 ホック1セット
Lショートパンツ(カーキ無地・綿、レーヨン)	ボタン6個(くるみボタン6個) タグ2枚 ファスナー1本

M半袖ブラウス（白地に黒の水玉・ポリエステル）	ボタン6個（4つ穴6個） タグ3枚
N長袖シャツ（クリーム無地・ポリエステル、綿）	ボタン10個（4つ穴10個） タグ2枚
O五分丈ブラウス（白地に青黄の小花柄・綿）	ボタン14個（4つ穴14個） タグ3枚
P半袖シャツ（灰無地・ポリエステル、綿）	ボタン5個（4つ穴5個） タグ2枚
Q長袖ボロシャツ（オレンジ・綿）	ボタン10個（大7個、小1個、大予備1個、 小予備1個） タグ2枚
R長袖シャツ（白地に青チェック・綿）	ボタン10個 タグ2枚
S半袖ブラウス（白無地・ポリエステル、綿）	ボタン6個（4つ穴6個）
T長袖ブラウス（水色無地・綿）	ボタン12個（4つ穴12個） タグ2枚
U半袖カットソー（白地に黄のボーダー・綿）	ボタン5個（4つ穴5個） タグ2枚 飾り紐1本 ハトメ8個
V七分丈袖ブラウス（白地に青のストライプ・ポリエステル、綿）	ボタン7個（2つ穴7個） タグ3枚
W半袖ブラウス（白無地・ポリエステル、綿）	ボタン7個（4つ穴7個）
X五分丈袖ブラウス（白・綿）	ボタン8個 タグ3枚

表2 被服の種類と付属品一覧

衿つきのカットソーを持参した被調査者は、装飾のロープ状の紐やそれを通すためのハトメについての名称が分からない様子であった。付属品の名称を正しく知ること、自身が被服を制作する際にどういったものを用いればよいか、想像する範囲が広がるのが期待されるため、今後の指導内容に組み込む必要性を感じた（写真2）。

また、フラップ付きのポケットが装飾としてついている被服を持参した学生についても同様のことが言え、形態としてそのものを知っていても被服用語としての基礎知識は現在の家庭科教育の中では十分に学んできていないことが考察された。



写真2 ハトメが使用されていた被服（U）

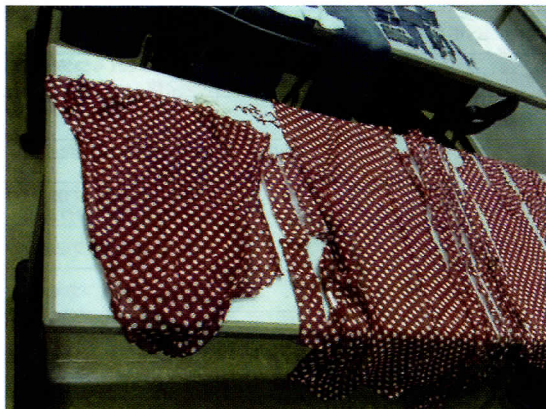


写真 3 解体した被服のうち最もパーツ数が多かった被服 (I)

2) 被服解体前と解体後の印象記述内容について

①袖ぐりについて

調査者は解体後に解体前と袖ぐりの印象がどのように変化したかを自由に配布資料に記入した。その結果は表3の通りである。

昨年と比較すると、採寸用語や部分名称などの専門用語の使用がまったく見られなかったのが残念である。昨年に比べたら少なくなったが、質問に対して適切な記述をしていないものが数名見受けられる。袖自体を広げたときの感想ともいえるものが5名いるため、さらに記述においての徹底した観察ポイントの誘導を心がけたい。

全体としては、しっかりと袖ぐりについて解体前と比較できている学生も半数いることから、今後のワンピース制作におけるその知識の活用が期待できる。

被服の種類	袖ぐりの印象の変化
A長袖シャツ(白と茶のチェック・綿)	まっすぐだと思っていたけれども解体すると斜めだった
B半袖シャツ(白とベージュ・ポリエステル)	袖ぐりの形がこんなにも丸みがあってびっくりしました。思っていたよりも一つ一つが変わった形をしていました。もっと角々していると思っていました。裁断した服の方は丸みが強いと思う。
C半袖ブラウス(白無地・綿)	レースがたくさんあって切りはなすのに大変でした
D長袖シャツ(赤と青のチェック・綿)	開くとこんなに広いんだと思った
E長袖ブラウス(白無地・綿、ポリエステル)	まっすぐ→ゆるやかなカーブ 袖ぐりは長いように見えるけど広げると意外と短い
F長袖シャツ(黄と白のチェック・綿)	袖ぐりは丸くカーブしているのだと思っていたが、あまり丸くはくまっすぐで下の方が少しカーブしていた。
G長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	着用時はまっすぐだったが裁断すると曲線になった

H長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	袖ぐりの肩から脇まで平行だと思っていたが、肩の部位が曲線になって出っ張っていた。
I長袖ブラウス(赤地に白の水玉・ポリエステル)	思っていたよりも丸くなかった。裁断してみると穴が思っていたよりも大きかった。
Jデニムパンツ(青・綿)	袖ぐりなし
Kショートパンツ(黒無地・綿、レーヨン、ポリウレタン)	袖ぐりなし
Lショートパンツ(カーキ無地・綿、レーヨン)	(他の人の解体したシャツを見て)自分が想像していたより切り口がななめ
M半袖ブラウス(白地に黒の水玉・ポリエステル)	思っていたよりも曲線になっていた。半袖だったので袖がほぼ三角形になっていたので驚いた。
N長袖シャツ(クリーム無地・ポリエステル、綿)	斜めになっている。付け根の方が太く、だんだん細くなっている。
O五分丈ブラウス(白地に青黄の小花柄・綿)	案外短かった
P半袖シャツ(灰無地・ポリエステル、綿)	もう少し大きい曲線だと思っていたけれど思ったよりも小さく円ではなかった。完全な円の形ではなかった。
Q長袖ボロシャツ(オレンジ・綿)	丸く、クルっとなっているように見えただけで、切り開いてみるとグネグネ曲がっていた。
R長袖シャツ(白地に青チェック・綿)	丸い曲線のラインになっている
S半袖ブラウス(白無地・ポリエステル、綿)	小さなカーブだと思ったがかなり山のあるわん曲だった
T長袖ブラウス(水色無地・綿)	広げる前はもっとびちびちで余裕のないような布だと思っていた。分解してみたら、しわもあまりないようで、縫製がしっかりしていてこれがびっくりした要因だと思いました。
U半袖カットソー(白地に黄のボーダー・綿)	思っていたより急カーブだった。広げてみると思ったより大きい。
V七分丈袖ブラウス(白地に青のストライプ・ポリエステル、綿)	見た目は変な形だと思っていたし、直角にくっつけないでできないと思っていたけど、まっすぐ付くし、輪にすると袖になるのでおもしろいと思った。
W半袖ブラウス(白無地・ポリエステル、綿)	裁断してみたら形が山型になっていた。
X五分丈袖ブラウス(白・綿)	未記入

表 3 袖ぐりに関する印象変化

②衿ぐりについて

調査者は解体前に被服の衿ぐりの形について、観察を行い、その印象を自由に配布資料に記入した。

その後被服解体を行い、解体後の衿ぐりを確認し、その印象を配布資料に記入した。その結果は表4のとおりである。

被服の種類	衿ぐりの印象変化
A長袖シャツ(白と茶のチェック・綿)	一本でできていて両端がとがっていた
B半袖シャツ(白とベージュ・ポリエステル)	思っていたより長く、あまり丸みがない。2枚の布でできていた。
C半袖ブラウス(白無地・綿)	衿ぐりはありませんでした
D長袖シャツ(赤と青のチェック・綿)	聞いてみると長くそしてとても丈夫に作られていた
E長袖ブラウス(白無地・綿、ポリエステル)	衿ぐりはゆるやかなカーブ、もっと丸いのかと思った。
F長袖シャツ(黄と白のチェック・綿)	衿ぐりはまっすぐで端の方が少し丸みがかった
G長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	直線にしてみると思ったより短かった。
H長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	延ばしてみても意外と短いと感じた。衿より厚みがあった。
I長袖ブラウス(赤地に白の水玉・ポリエステル)	かなりシンプルな感じ
Jデニムパンツ(青・綿)	衿ぐりなし
Kショートパンツ(黒無地・綿、レーヨン、ポリウレタン)	衿ぐりなし
Lショートパンツ(カーキ無地・綿、レーヨン)	(他の人の解体したシャツを見て)衿の形によって衿ぐりの形も変化していました。
M半袖ブラウス(白地に黒の水玉・ポリエステル)	前の衿ぐりと後ろの衿ぐりの曲線の具合が思っていたよりも大きく違った。結構差があった。
N長袖シャツ(クリーム無地・ポリエステル、綿)	意外と狭い。衿がチャイナカラーで常に見えていたのでくに印象は変わらなかった。
O五分丈ブラウス(白地に青黄の小花柄・綿)	案外使用枚数が多かった。
P半袖シャツ(灰無地・ポリエステル、綿)	裁断する前の方が少し小さく感じた。衿は長方形に近い。
Q長袖ポロシャツ(オレンジ・綿)	あまり真ん中と端の太さが違うようにには見えなかったけれど、結構太さの差があった。
R長袖シャツ(白地に青チェック・綿)	長方形だと思っていたが、端は丸みを帯びたラインになっている。
S半袖ブラウス(白無地・ポリエステル、綿)	結構曲がっていると思ったらまっすぐだった。
T長袖ブラウス(水色無地・綿)	衿なので安っぽい作りなのかと思っていたけど接着芯が入っていたり、折り返しには2枚布が使われていたりとても手が込んでいて驚きました。
U半袖カットソー(白地に黄のボーダー・綿)	たくさん縫ってあり、強く作られていた。4枚くらい布が重なっていた。
V七分丈袖ブラウス(白地に青のストライプ・ポリエステル、綿)	接着芯もあって、二重になっているので意外に頑丈だった。
W半袖ブラウス(白無地・ポリエステル、綿)	切り取ってみるとこんな形でくっついてたんだと思った。服にくっついているときは曲がっていたけど切り取ってみると直線でした。
X五分丈袖ブラウス(白・綿)	1枚が重なって縫われていると思っていたが、裁断すると中に接着芯という布が入っていてびっくりした。

表 4 被服解体前と解体後の衿ぐりに関する印象変化

こちら袖ぐりの記述同様、昨年と比較すると部分名称や専門用語を使つての記述が見られなかった。また、衿ぐりではなく、衿の形そのものについての記述をしたものが見受けられたので、衿ぐり位置の確認を徹底した上での記述を促す必要性の高さを再認識した。同時に、衿の形自体もやはり見慣れていないからそちらのについての記述をしてしまうのであるならば、それについて書く項目を増やすことも検討したいと思う。

そもそも衿を首に綺麗に添わせるためにどのようなカーブが必要なのかという理解を深めるためにこの質問項目を置いているが、被調査者の記述からは半数程度の理解しか得られていないように考えられる。

また、記述の書式についてであるが、提出することを前提としているにもかかわらず、報告調の文体ではないことが昨年からの課題であった。今後配布資料の構成として、空白に自由に記述させるのではなく、空欄を設けたり、表にして罫線をつけたりすることで、単なる感想ではなく、他人が読む文章であるという意識を芽生えさせ、今後の被服製作のコンセプト表記や社会生活における報告文書作成の際の一基準として役立てさせたいと思う。

3) 被服解体後の印象について

被服解体作業終了後、調査者に改めて解体した構成パーツを大きく広げさせ、観察を行わせた。さらに、解体した被服を使って、見返しの確認や衿の形、袖についてなどの解説を行い、それに合わせて、それぞれのパーツについて自ら解体したものを指し示し、更には解体したパーツに「袖」「後ろ身頃」「前身頃」「カフス」など部分名称をチャコペンで書くよう指示も行った。

昨年の結果及び改善点を活かし、3名の解体した被服を用いて、上衣について、複雑な作りのもの、そうでないもの、さらに下衣の解説も詳細に行った。更に解体した被服に自身でその名称を書くことで、縫い合わせる前はどのような形であるかを印象付け、同時に、ワンピース制作の際のしるしつけ、裁断の場合でもそういった作業を行うことで、パーツを正しく構成し、完成させることができるということへの理解の深まりを狙った。

全ての作業を終了した後、解体作業全体に関する印象を自由に記述してもらった。結果として、昨年よりも感想が詳細になったことから、ワンピース製作を控える被調査者の被服構成パーツの理解はおおよそ深まったことがうかがえる。解体前と解体後の自身の被服に関する考え方、理解の変化について書いてあるものが目立ち、授業展開の試みは大体において、成功であると言えるであろう（表5）。

被服の種類	全体的な印象
A長袖シャツ(白と茶のチェック・綿)	そんなに枚数がないと思ったが、意外と多くのパーツからなっていることが分かった。服を裁断したことが今までになかったので、服の作りを知ることができてよかった。
B半袖シャツ(白とベージュ・ポリエステル)	見直しは丈夫にするために2枚重ねて1枚の布になっていました。布はすごく薄い布だったけど、縫っているところやボタン、取っ手部分などはとも丈夫にキレイに縫い合わされてあったので、裁断が少し大変でした。
C半袖ブラウス(白無地・綿)	少ない枚の布だと思っていたけれど、切ってみると思いの外多かったので驚きました。レースをよく見ると細かくて服を作るとき大変だろうなと思いました。
D長袖シャツ(赤と青のチェック・綿)	裁断前にはつながっていると思っていたものが2枚になったり3枚になっていたりして驚きました。
E長袖ブラウス(白無地・綿・ポリエステル)	広げてみるとパーツの一つ一つがとても小さく感じる。複雑な作りではなかった。
F長袖シャツ(黄と白のチェック・綿)	最初は全部で18枚だと思っていたが、実際裁断してみると30枚もあって驚いた。カフスと、袖と、フラップに接着芯がついていて丈夫に作られていた。たくさんのパーツからできていた。
G長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	袖の片方ずつが考えていたより大きかったです。後ろ身頃、前身頃は裁断してみるとコンパクトでした。
H長袖シャツ(ピンクと黒のチェック・綿)	裁断する前は小さいブラウスだったが、裁断すると大きく感じた。全てをつなぎ合わせる時に形を合わせることが大切だと感じた。
I長袖ブラウス(赤地に白の水玉・ポリエステル)	裁断する前は簡単な作りな服だと思っていたのに、切ってみたら35枚という結果でびっくりでした。安い服だったのに、かなり手間がかかっただろうと思った。私には作れない服でした…。
Jデニムパンツ(青・綿)	布が何枚も重なってて頑丈にできていた。1つ1つが細かい。裁断した後心が軽くなった。ファスナーの所が5枚も布が使われていた。
Kショートパンツ(黒無地・綿・レーヨン・ポリウレタン)	曲線がきつ、分厚く丈夫にできていた。使われている布面積がかなり大きいことが分かった。だいぶ平たくなった。縫製一つつけるとそれだけ布面積が増える。多めの予想したつもりだったけどそれより多かった。シンプルデザインだと思ったけどパーツは多かった。
Lショートパンツ(カーキ無地・綿・レーヨン)	思っていたよりパーツ数が多いということ。布に裏布がついていたこと。
M半袖ブラウス(白地に黒の水玉・ポリエステル)	フリルが思っていたよりも長かった。一度フリルを縫って止めて長さを合わせていることが分かった。
N長袖シャツ(クリーム無地・ポリエステル・綿)	未記入
O五分丈ブラウス(白地に青黄の小花柄・綿)	前ヨークだけ見たとき、何かよくわからなかった。かなり複雑な作りになっていたということがわかった。だから切るのが大変だった。
P半袖シャツ(灰無地・ポリエステル・綿)	台襟が思っていたよりも細く、裁断する前は別だと思っていた。カフスは1枚を折り重ねていたものでした。肩と背のギャップはそのまま縫われていました。どこも強くするため2階は縫われていて布の縫い目はロックミシンをかけたてありました。(かきつけていないところもあった。)
Q長袖ボロシャツ(オレンジ・綿)	とにかく布がたくさん使っていると思った。見えないところにも布が使っている。後ろ身頃のところが2枚縫っていたし、こだわってある服だなと思った。あと、意外と糸が切れなかった。服が破れたりするときはすごい力加わるんだというの分かった。
R長袖シャツ(白地に青チェック・綿)	布同士を縫い合わせるだけでなく、布端を糸がでるように糸で縫われている。思っている以上に2枚の布が合わせて1つのパーツになっているものがあった。
S半袖ブラウス(白無地・ポリエステル・綿)	裁断する前はヨレヨレの簡単な構造のものだと思っていたが、裁断してみると思ったところにパーツが重なっていたりして意外に考えられて作られていたんだなと思った。自分が着ていた服にこんなにも色々考えられていることにびっくりした。他の服も裁断してみたいと思った。
T長袖ブラウス(水色無地・綿)	シンプルな作りのシャツを選んだつもりだったけれど、糸にはいくつもの布が使われていたし、縫い合わせの部分はいくつも縫ってあったので驚きました。
U半袖カットソー(白地に黄のボーダー・綿)	ベルト？の部分で2枚重ねになっていたとは思わなかった。袖の部分や前立ての部分は2〜4枚の布が使われており、分解することができなかった。ロープを通してあるところの布はよく伸びる布が使われていた。
V七分丈袖ブラウス(白地に青のストライプ・ポリエステル・綿)	こんなにたくさんの布を合わせてブラウスができていたとは思ってなかった。見た目で多く感じないし、裁断でこんなに時間も手間がかかったので実際作らなると時間がかかって大変だと思った。
W半袖ブラウス(白無地・ポリエステル・綿)	裁断する前はこんなに布が合わされているとは思ってなかったのにびっくりした。裁断してみると服として着ていた時の形と裁断して着てみた時の形と各部分の形が全然違ってて裁断しなければならなかったことが分かった(特に袖あたり)。
X五分丈袖ブラウス(白・綿)	縫い目がすごく細かくて、しかも布が思ったよりも多く重ねて縫ってあったことに驚いた。

表5 解体した構成パーツに関する説明後の全体的な印象

また、特に今年においては見返しや接着芯の発見は学生たちにとってかなり衝撃的だったようである。ただし、前述したとおり、今回部分名称やデザインの専門用語の解説を同じ時間内に行ったにもかかわらず、自由記述においてその使用が見られないのが残念なことであった。普段から意識して使うよう、指導をしていく必要が考えられる。

また、未記入の学生も見受けられたため、配布資料の回答欄の工夫も今後の課題であると言える。

4) 授業全体の印象記述について

筆者の授業では授業の終わりに授業全体を振り返り、こういったことを理解したかなどの感想を書かせている。昨年同様この調査日の授業においても行い、被服解体について記述したものを表6として挙げる。

裁断したことで新しい発見ができました。
ブラウスの構成について、1枚の布を使って折り返して2枚になるようにしていたり、2枚の布を重ねて1枚にしていたり、所々違っていてもよかった。小学校の制服のブラウスだったのでパーツや作りは複雑ではなかった。
衣服の裁断に初めて挑戦して、衣服を構成するにはこんなにも多くの布地やパーツが必要なのだと改めて思いました。
高校の制服シャツを解体しました。こんなに頑丈にできていて、たくさんの布が使ってあるなんて知りませんでした。3年間の汗と涙がしみ込んでいました(笑)
服の裁断は最初は難しかったけど、思い切ってはさみで切るとだんだん楽しくなりました。30枚のものの布からできていたので驚きました。
シャツを切断してみて、自分が普段着ている服がとても複雑な作業の元完成しているのだと改めて知りました。シンプルなシャツだけれど何十枚もの布を縫い合わせてあるので、自分が今後選ぶ服もよく観察すべきだなと思った。
今日の授業は服を裁断(糸をすべて解く)という作業をし、すぐにできると思っていたが、服の構成が意外と細かく大変だった。またたくさんの布で構成されていて、これを1990円で買ったことに本当に安く感じた(手間がすごくかかっているため)。
裁断は思いのほか大変でした。レースの部分も切り取らなければいけなかったのだととても大変でした。一枚の服を作るのにこんなにたくさんの布が使われていて、縫い合わせているのはすごく大変な作業だなと思いました。
デニムズボンを糸ざりばさみでザクザク切っているのだんだんスカッとしてきました。25枚もミシンで縫うのは大変だったと思います。頑丈にしたい所は2枚の布を重ねてありました。チャックのところは5枚使われていました。切るのはストレス解消になりました。
思ったよりも服は多くのパーツでできているため、機械での大量生産にせざるを得ないと思いました。
服をバラバラにするのはとても大変だった。予想以上にパーツの多さに驚いた。バラすと何がなんだかよくわからないものになってしまい、元のものがブラウスだととても思えなかったけど服のパーツはよくわかった。
ブラウスを解体して多くの布をつなぎ合わせてい出来上がっていることに気付いた。衿の下に衿ぐりというものがあることを初めて知った。1枚のブラウスを作るにはどのくらいの長さの布を用意するのだろうかと思った。
毎日誰もがみんな着ている服にこんなにも深い構造があることを知って新たな発見がたくさん見えた。
ブラウスの裁断はたくさんの布でできていることを知って、一枚で覆うだけではなく難しいと思った。
今日はシャツを裁断して、思った以上に色々なパーツからできていることを知りました。こういう機会がないと裁断することもなかったと思うのでいい機会でした。

シャツの解体は過去に着ていたシャツを裁断するのが難しい分、裁断部分の多さ、解体前後のサイズの違いに気がつくことも多かった。
解体は思っていたより布が多く驚いた。
裁断した後は思ったよりもパーツがあったので、どこについていたのかとびっくりしました。
服の分解は思ったより時間がかかり、難しかった。服を作ることの大変さがよくわかった。
ブラウスと解体してみて、思っていたよりも布は少なかったけれど、服を作るためにはたくさんのパーツが必要ことが分かりました。懐かしい高校のブラウスは夏服のため、やっぱり風通しのよさそうな軽いものでした。たくさんの縫い跡があり、頑丈に縫ってあったんだなぁと改めて思いました。ただ、解体はとてもしんどかったです。
服を裁断したのは今日が初めてで、一枚の服を作るのにたくさんの布を縫って作られていたので、改めて驚きました。
服の解体が難しかったです。布がたくさん必要だったので大変でした。

表 6 授業全体の感想より被服解体作業に関する記述のみを抜粋

昨年は16名中7名、43.7%の記述率であったが、24名中22名、91.6%とほとんどの学生が被服解体についてのコメントをしている。これは、昨年は2コマ続きの授業のうち、二週を使って、一週目後半に被服の部分名称やワンピースに関わるデザイン名称の確認を行い、二週目前半に被服解体を行ったのに対して、今年は一週で、1コマ目に用語の確認、2コマ目に被服解体を行ったためである。

内容については、やはりこれまでに被服解体をしたことがないため驚いた、というものが多くあるが、それは同時に、これまで被服を作ってきていないことを意味すると考えられる。作ったことがあるならば、解体をする前の構成パーツ数予測においても誤差は少ないはずであるからである。

また、被服構成（被服製作）と販売価格についてを言及したコメントも見受けられ、既製服の複雑な作りについてだけでなく、作り手や今後の衣生活（被服購入）への新しい視点の獲得にもこの作業は有効であることが考察される。

おわりに

本研究は、昨年に引き続き、ワンピースという被服製作をその後の授業に控える学生に対して、その理解を支援するために、被服解体という作業を行わせた。今年は高校の制服など懐かしい時代に着用していた被服を持参する被調査者が多かったため、解体することは躊躇することでもあったようだが、自身の学習のための糧として有効利用できた、と考えることもできるであろう。

昨年の結果をふまえ、作業内容を改善して今回の試みを行ったが、被服解体は被服構成を理解することに大きく貢献しており、昨年よりも理解度が上がっている様子が見て取れる。同時に、この作業を行うことで、普段の衣生活を再考する機会にもなっていることが分かった。

ただし、同日に行った被服の部分名称やデザインの名称については活用度が大変低かったため、自身の中で用語を獲得し、使用するには同一時間内の展開は早急すぎるものが推測される。つまり、昨年のように用語の学習と被服解体における使用の機会は時間をおいた方が、復習にもなり、学生にとってより理解を深め、使用を心がける授業展開になると言えるであろう。

今後の課題としては、ワンピース制作のための被服解体であるという目的を学生に伝え、それを意識した上で作業を行わせること、また、自由記述における表現方法の改善、部分名称、デザイン用語だけでなく、解体する際に出てくると思われる付属品に対する基礎知識の事前獲得が挙げられる。

最後に、実習授業に際して授業進行及び写真撮影等に協力いただいた植木由香実験実習助手に感謝の意を表す。

注

- 1 「被服製作実習を支援する授業展開についての試み～被服解体を通して～」平成22（2010）年3月 広島女学院大学『生活科学部紀要』第17号107-118頁
- 2 『知りたいことがすぐわかる！ソーイングの基礎レッスン 手縫い・ミシンソーイング』アップルミント 2008年5月10日 P.21より引用、一部加筆修正
- 3 『文化ファッション大系服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース』文化服装学院編 文化出版局 2000年4月1日 P.129～P.131、P.133より引用

図・表・写真出典一覧

図1 注2参照

図2 注3参照

表1～6 調査表を用いて筆者が作成

写真1～3 広島女学院大学 実験実習助手 植木由香氏撮影